

各 位

会 社 名 セーラー広告株式会社
 代表者名 代表取締役社長 植村 貴好
 (JASDAQ・コード 2156)
 問合せ先
 役職・氏名 取締役総務本部長 岩本 克美
 電話 087-825-1156

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 13 日に公表した業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせします。

記

●業績予想の修正について

平成 23 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想の修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 四半期純利益 | 1株当たり四半期純利益 |
|--|--------|---------|---------|--------|-------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 4, 816 | 31 | 42 | 21 | 3.72 |
| 今回修正 (B) | 4, 184 | 17 | 31 | 36 | 6.23 |
| 増減額 (B-A) | △631 | △14 | △10 | 14 | — |
| 増減率 | △13.1% | △44.6% | △24.7% | 67.5% | — |
| (ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期) | 4, 632 | 5 | 20 | △24 | △4.12 |

平成 23 年 3 月期通期連結業績予想の修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1株当たり当期純利益 |
|------------------------------|---------|---------|---------|-----------|------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 10, 116 | 177 | 194 | 100 | 17.01 |
| 今回修正 (B) | 8, 900 | 90 | 110 | 60 | 10.19 |
| 増減額 (B-A) | △1, 216 | △87 | △84 | △40 | — |
| 増減率 | △12.0% | △49.3% | △43.6% | △40.1% | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期) | 9, 586 | 12 | 39 | △96 | △16.39 |

(修正の理由)

当第 2 四半期連結累計期間における当社グループ商勢圏におきましては、個人消費などに一部持ち直しの動きがみられたものの、景気は依然厳しい状況で推移し、地元企業の財務体質改善に伴う広告予算削減の影響が印刷・折込広告を中心としたセールスプロモーション関連広告にも波及するなど非常に厳しい環境となり、当社グループにおきまして、娯楽業や流通小売業の主要広告主において広告出稿量の減少がありました。

このような環境のなか、当社グループは事業エリアと事業領域の拡大を掲げ、全社一丸となって営業活動に鋭意専心努めた結果、第 1 四半期におけるエコカー補助金制度の終了期限に併せたプロモーションや参院選に関連した広告の受注に加え、第 2 四半期には夏季休暇に併せた

TVスポットCMや集客イベントなどを数多く受注しました。しかしながら、広告市場の全体的な低迷の影響を受け、当第2四半期連結累計期間におきましては売上高4,184百万円（前回予想比13.1%減）となる見込みです。利益面におきましては、外注コストの適正化による売上総利益率17.6%（前回予想比0.5ポイント増）を見込んでいますが、売上高の減少による影響から、営業利益は17百万円（前回予想比44.6%減）、経常利益は31百万円（前回予想比24.7%減）となる見込みです。また、当第1四半期において発生した固定資産受贈益42百万円および賞与引当金戻入額10百万円の計上に加え、株式会社穴吹工務店に対する更生債権回収予定額を加味した貸倒引当金戻入額17百万円の計上を特別利益に見込み、当四半期純利益は36百万円（前回予想比67.5%増）となる見込みです。

当社グループにとって非常に厳しい経営環境が継続しており、大手広告会社をはじめ広告業界に属する各企業においては、インターネットを利用した新たな広告手法の開発、あるいは、同業他社との競合激化に対応できる組織・環境づくりが急務となっています。当社グループにあっては、こうした業界動向に対応するため、事業エリアと事業領域の拡大に取り組んでおり、福岡エリアの新規顧客獲得や、子会社における電子出版サービスの開始および中国の大連テレビショッピングの実施など、規模は小さいながらも着実に前進しています。当社グループの平成23年3月期の通期連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業況と併せ、こうした取り組みによるグループ内各拠点間のシナジー効果等を考慮し、売上高8,900百万円（前回予想比12.0%減）、営業利益90百万円（前回予想比49.3%減）、経常利益110百万円（前回予想比43.6%減）、当期純利益60百万円（前回予想比40.1%減）を予想しています。

なお、1株当たりの配当金につきましては、今回の業績予想による修正はなく、当初計画（平成22年5月13日公表）のとおり、期末配当4円を予定しています。

（その他投資者が会社情報を適切に理解・判断するために必要な事項）

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により異なる可能性があります。

以 上